



注目ポイント

- ✓先週、ドル円は日銀決定会合後の植田総裁のタカ派発言や、FRBが年内2回の利下げ見通しを維持したことで、円買いが進む場面もあったが、その後持ち高調整の円売りが優勢となり円安が進展。国内金利は、週前半に米金利低下を受けて低下したが、日銀総裁の発言やCPIの上振れにより週後半は上昇した。日経平均は米株高やパフェット氏の商社株買い増し報道を受け買われ、一時3万8千円を超える場面もあったが、戻り売りに上値を抑えられ週後半は小幅続落した。
- ✓今週の各種市場は、もみ合いが予想される。ドル円は円高基調ながら米長期金利の高止まりや円買いポジションの調整が円の上値を抑える要因となろう。国内金利は、日銀の利上げ観測が金利上昇圧力となるも、来年度を見据えた機関投資家の債券買いも見込まれ一進一退か。そして株式市場は、米国の相互関税が予定されている4月2日までは、動きづらいとの見方が大勢。その前に、今週は各種経済指標で米国経済の状況を確認しておきたい。(門倉英司)

①マーケット動向(実績データ)

2025年3月17日

～

2025年3月21日

市場・指標			3月17日 ～ 3月21日		3月21日	前週末比		トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	騰落幅	騰落率	
株式	日本	日経平均 (円)	38,129	37,378	37,677	+624	+1.7%	
	米国	NYダウ (ドル)	42,250	41,413	41,985	+497	+1.2%	
	ドイツ	DAX (ポイント)	23,476	22,723	22,892	-95	-0.4%	

市場・指標			3月17日 ～ 3月21日		3月21日	前週末比	トレンド (直近2か月)
			最高	最低	終値	変化幅(%)	
金利 (国債)	日本	10年 (%)	1.530	1.495	1.510	-0.005	
	米国	10年 (%)	4.34	4.17	4.25	-0.07	
	ドイツ	10年 (%)	2.88	2.75	2.77	-0.11	

市場・指標			3月17日 ～ 3月21日		3月21日	前週末比	トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	変化幅(円)	
為替	米ドル (円)		150.15	148.18	149.32	+0.68	
	ユーロ (円)		164.19	160.74	161.55	-0.14	
	豪ドル (円)		95.75	93.16	93.64	-0.36	

市場・指標			3月17日 ～ 3月21日		3月21日	前週末比		トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	騰落幅	騰落率	
その他	日本	東証リート (ポイント)	1,711	1,678	1,703	+28	+1.7%	
	米国	NY原油 (ドル)	68.72	66.21	68.28	+1.1	+1.6%	
		NY金 (ドル)	3,065	2,991	3,021	+20	+0.7%	

(注) Bloombergのデータを使用して浜銀総研作成。休日・休場の場合は、その前営業日の値を使用して作成してあります。

②マーケット動向(振り返り&予想)

2025年3月24日 ~ 2025年3月28日

● 株式

底堅いものの上値は重い

日経平均
【予想レンジ】 37,000 円 ~ 38,100 円

- ・先週の日経平均は上昇。週前半、米株高や著名投資家バフェット氏の商社株買い増し報道を受けて堅調に推移し、節目の3万8千円を超える場面もあった。しかし、全体としては底堅さを維持しつつも、3万8千円を上限とするレンジ相場が相当意識されているせいか、戻り売りが重しとなり、週後半は小幅続落で取引を終了。
- ・今週の日経平均は、底堅いものの上値は重いだろう。日米の中銀ウィークを無事通過したことが買い安心感となろうが、トランプ米大統領が「米国解放の日」と名付けた、相互関税が予定されている4月2日までは、主要な輸出関連株には手を出しにくいとの見方が大勢。その前に、今週発表される各種米経済指標を確認しておきたい。

● 金利
(国債)

一進一退か

10年国債利回り
【予想レンジ】 1.480 % ~ 1.550 %

- ・先週の国内金利は小幅低下。米金利低下を受け、週前半に利回りが低下。しかし、週央には金融政策決定会合後の植田日銀総裁の発言が、タカ派ととられたことや、週末にはCPI(2月)の上振れにより、追加利上げの可能性が意識され、中長期債の売り圧力が強まった。結果として10年国債利回りは、前週末比小幅低下で取引を終了。
- ・今週の国内金利は、もみ合いか。先週、植田日銀総裁が長期金利の上昇を牽制しなかったことに加え、CPI(2月)が予想を上回ったことから、次回の日銀決定会合に向けて、金利に上昇圧力がかかることが予想される。しかしながら、国内金利も一定の水準まで上昇していることから、機関投資家による来期投資計画分の前倒しの債券買いが始まる可能性も想定され、一進一退の展開となろう。

● 為替
(米ドル)

方向感なくもみ合いか

米ドル/円
【予想レンジ】 147.50 円 ~ 150.75 円

- ・先週のドル円は円安が進展。日銀は決定会合で利上げを見送ったが、植田総裁が会見でタカ派な姿勢を示し、一方でFRBも、政策金利を据え置いたが、年内に2回利下げする見通しを維持。日米金利差縮小の思惑から円高ドル安に傾く場面もあったが、中銀イベントを無難に通過したことで、直近1か月で膨らんだ円買いドル売りポジションの持ち高調整の方が優勢だった。
- ・今週のドル円はもみ合いの展開か。円高ドル安を基調とする展開が予想されるが、米長期金利の高止まりや、円買いに大きく傾いていたポジションの調整が円の上値を抑える要因となろう。今週、米国では数多くの経済指標の発表が予定されているが、これらを確認しながら米経済の動向を見極めたい。



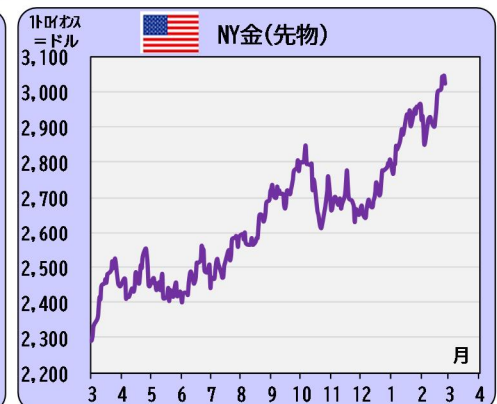
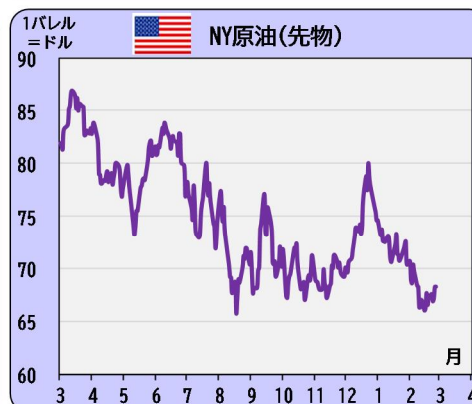
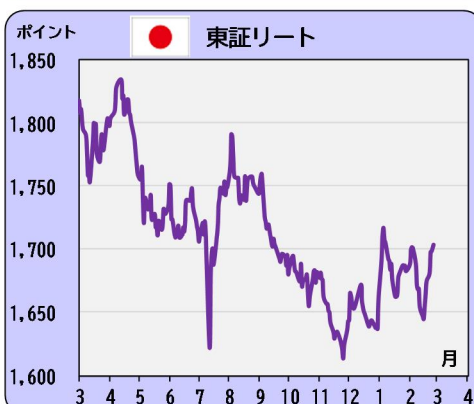
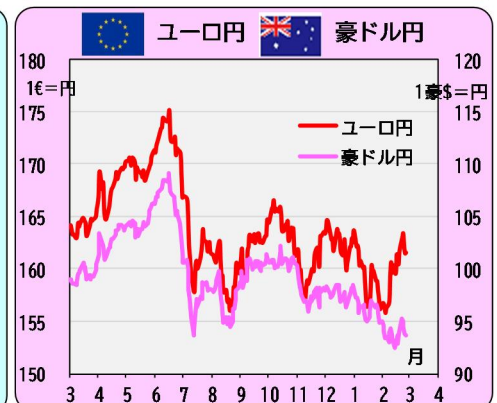
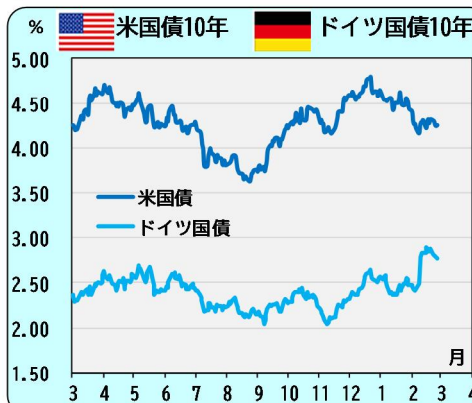
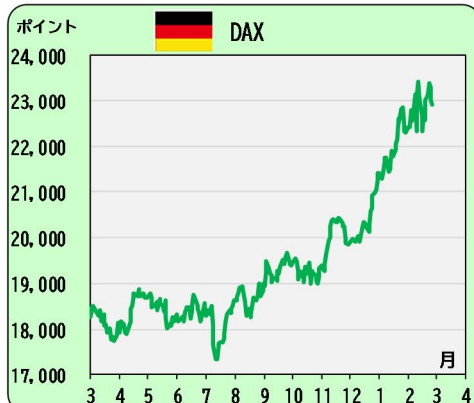
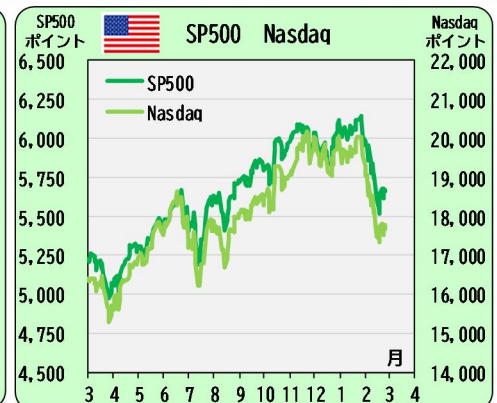
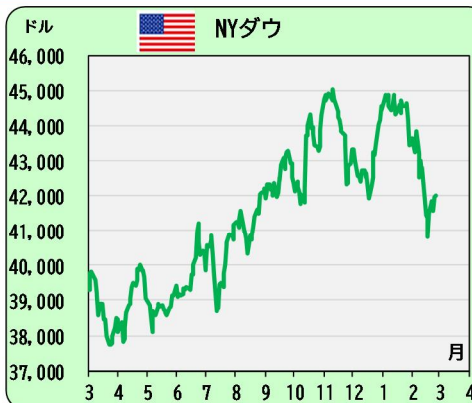
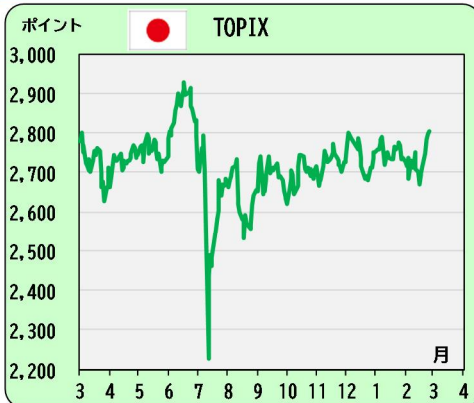
○今週の注目指標 ※内容および日程が変更される場合があります。

月 日	国 内	海 外
3/24(月)		
3/25(火)	日銀金融政策決定会合議事要旨(1月開催分)	米国: S&Pケースシラー住宅価格指数(1月) 米国: コンファレンスボード消費者信頼感指数(3月)
3/26(水)		米国: 国債入札(5年) 米国: 耐久財受注(2月)
3/27(木)	国債入札(40年)	米国: 国債入札(7年) 米国: GDP(10~12月)確定値
3/28(金)	日銀金融政策決定会合主な意見(3月開催分)公表	米国: 個人所得・個人消費支出(2月) 米国: ミシガン大学消費者態度指数(3月)確報値



③その他チャート集

直近1年間



※Bloombergのデータを使用して浜銀総研作成

※頻出英字略称用語一覧

略称	正式名称	略称	正式名称	略称	正式名称
AI	人工知能	FRB	米連邦準備理事会	PBR	株価純資産倍率
CTFC	米商品先物取引委員会	FTA	自由貿易協定	PCE	個人消費支出
CPI	消費者物価指数	GDP	国内総生産	PER	株価収益率
ECB	欧州中央銀行	IMF	国際通貨基金	PMI	購買担当者景気指数
ETF	上場投資信託	IEA	国際エネルギー機関	PPI	卸売物価指数(生産者物価指数)
EU	欧州連合	ISM	米供給管理協会	SQ	特別清算指数
FDI	海外直接投資	OECD	経済協力開発機構	TPP	環太平洋経済連携協定
FF	フェデラルファンド	OPEC	石油輸出国機構	WSTS	世界半導体市場統計
FOMC	米公開市場委員会	OPEC+	OPEC加盟国と非加盟国の枠組み	WTI	ウエストテキサスインターミディエート(原油)

●ご留意事項

- ・本レポートの目的は情報提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載した内容は、発行日午前9時までの情報にもとづく浜銀総合研究所・調査部の見解であり、レポート発行後に予告なく変更することがあります。また、本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源にもとづいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。最終的な投資判断はお客様ご自身でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートに関するお問い合わせは浜銀総合研究所・調査部までお願いします。